



中野 拓 (エニグマ・関目教室)

今春からエニグマと関目教室で英語を担当しております、中野拓と申します。はじめまして。

京都大学を卒業した後、20年近く英語教育に携

わってまいりました。

英語が本当に面白いと思ったのは、大学一年の春でした。若くて生意気でしたが、学ぼうという気概だけはありました。当時はインターネットの使用がようやく一般的になってきた頃で、それまでに英語をちゃんと聴いたり話したりしたことはありませんでした。英語の勉強といえば文法と訳読と英作文ばかりで、実践的な英語にとにかく飢えていました。カナダの大学を出た姉への憧慄もあったのだらうと思います。私に英語を教えてくださいましたのはアメリカ人の先生で、英語が母語の先生が英語で自分に向かって語りかけてくださる有り難さに

英語の道に踏み出したきっかけ、そして、これまでとこれからのこと。

胸が震えました。講義が終わったらいつも、片言の英語で質問に行きました。先生が何をおっしゃっているのか、少しは分かることもあったし、全然分からないこともありました。けれども、いつも必死で理解しようとしていたし、先生はそれを買ってくださったのでしょうか——ときどき、大学のすぐ近くのレストランに夕食に誘ってくださるようになりました。生まれて初めて鳩の肉を食べたり、ワインを飲んだりしました。でも、英語だけで話すというのがそこのルールで、結局、先生の薫陶を受けた一年間のうちには、流暢に会話を膨らませ、弾ませられるには到りませんでした。そうは言っても、その一年で私は文字通り英語に夢中になったし、聴き取りや話す訓練も含めて必死に勉強するようになりました。自分がかつてはほとんど英語を話せなかったこと、けれども、教え切れないほど失敗をしながら、そして、回り道をしながらも、一所懸命に英語に取り組んできて上達してきたことが今の職業上の自分を支えてくれています。

中野 拓 (エニグマ・関目教室)

駆け出しの英語講師だった頃、内田樹さんというフランス文学・哲学と武道がご専門の先生の講演を聞きに行ったことがありました。講演後の質疑応答で私は、「自分の英語は完璧とは程遠い。自分などが英語を教えていることが不安になる」と助言を求めました。内田さんは、「ご自身が知的に興奮していたら、その知的興奮はきっと学生さんに伝わります。大丈夫ですよ」とおっしゃってくださいました。

語学に取り組むことは、頂上がない山を登ることに似ています。どれだけ高く登っても、ずっと、ずっと上がります。「極める」ということはありません。けれども、私はいつも初心を忘れず、勉強を怠らず、そして常に知的に興奮した「おもしろい」人間でありたいと思っています。

が、なんとか一つひとつ改善し、前を向いて進める雰囲気と環境を整えていきたいと考えていますので、気になる点があればご指摘いただければと思います。

今年も元気が良く、素直な子達がたくさん集まっております。中学部では、3月の診断テストや、実力診断テストに向けて毎日朝から晩まで自習に来たり、家で勉強を頑張ったりと、入念な準備をしてくれています。こういう姿勢は本当に素晴らしい。今後も継続して頑張ってくれたらと思っています。

この流れをしっかりと継続していき、1年後には今以上の教室を作れるように、今年も日々奮闘しながら教室作りを頑張っていきますので、今後とも宜しくお願いします。



▲中3生からもらった色紙
中には一人ひとりからメッセージが入っていました

熊谷のちょっとイイ話

TEACHER'S VOICE

熊谷 周作 (今津教室)

新年度がはじまりました

先日、公立高校入試の結果発表がありました。今年の中3生を振り返ると、明るくて素直で真面目な生徒が多かったのですが、自主的に動ける生徒が少なかったの、何でも発破をかける場面がありました。それでも最後まで頑張ってくれたおかげで、公立高校に無事全員合格することができました。長丁場の一年間お疲れ様でした。そして、そのサポートをしていただいた保護者の皆様、本当にお疲れ様でした。

よく頑張ってくれていたのが気持ちが詰まる場面が多く、面談等で気持ちが溢れ泣いてしまう生徒も多々いました。しかし、ひとしきり泣いた後は、気持ちを切り替えて頑張っている姿は本当に素晴らしかったように思います。悔しいことや、辛いことがあった後でも切り替えて頑張れる力があるというのは、今後、社会を生き抜いていく上では大切な力になると思います。

そんな受験生達から、受験後に色紙をいただきました。素敵なメッセージがたくさん書かれていた

ので、私の宝物となりました。私も気持ちがしんどくなった時には、この色紙を見ながら再度気持ちを盛り上げて頑張っていきたいと思っています。

さあ、新年度が始まりました。新しい生徒が増え、学年も上がり、全クラスで課題が山ほど出てきています。この課題を一つひとつクリアして、各生徒が成長できる環境づくりをしていきたいと考えています。一つひとつの積み上げがこの後を大きく変えていくので、この時期は特に丁寧に対応していきたいと考えています。毎日の変化は小さいことで普段は気づかないことも多いですが、月や年単位で見た時には、大きな成長を感じられることになるので、とにかく全力で物事に取り組んでいきたいです。

毎日ミーティングを行い、生徒の様子や、変化、課題の消化量など、様々な角度で確認しながら、対応策を考えています。我々の指導もまだ完璧ではありません。至らぬところもたくさんあります

- 中学英検第1タームを4月8日(月)より実施します。
- 中学中間テスト対策を4月15日(月)より実施します。(教室により実施時期が異なりますのでご注意ください。)
- 4月21日(日)は春の遠足で琵琶湖博物館に行きます。是非ご参加ください。
- 4月23日(火)は開智総合学院全クラスの休講日です。
- 4月24日(水)はカイチ個別の休講日です。
- 小学診断テストを4月24日(水)・25日(木)に実施します。
- 4月30日(火)は小学部(高殿のみ)の休講日です。

カイチからのお知らせ

生徒と保護者と先生の共育ニュースレター



【本部】
城東区今福西2-1-8モデラートWASHIMI 201
TEL.06-6939-0008

【今福教室】 城東区今福西 2-9-20 TEL.06-6934-4662	【今福第2教室】 城東区今福西 2-16-8 TEL.06-6931-2000
【諸口教室】 鶴見区諸口 4-14-9-1F TEL.06-6912-3984	【関目教室】 城東区関目 4-6-17-2F・3F TEL.06-6934-8117
【今津教室】 鶴見区今津南 1-6-2-1F TEL.06-6167-9722	【古市教室】 城東区古市 3-21-8 TEL.06-6931-0467
【高殿教室】 城東区成育 5-22-10-2F TEL.06-6786-1008	【カイチ予備校】 城東区今福西 1-10-17 TEL.06-6935-2220
【エニグマ】 中央区谷町 9-4-5-3F TEL.06-6777-1563	【万緑会】 天王寺区上本町 6-9-10-3F TEL.06-6772-5011

受験生そして保護者の皆様、本当にお疲れさまでした。公立入試が無事終わりました。

長かった受験も、先日3月19日の公立合格発表を最後によりやく終わりました。今年度の公立高校受験者は134名。そのうち、トップ10校合格者は過去最高の33名、国立の大教大附属平野高校に3名、大阪公立大学工業高専に2名、寝屋川に8名、八尾に2名など合計122名が合格しました。トップ10校の合格率は84.6%。公立全体の合格率は91%となり、こちらも過去最高の合格率となりました。

受験生とご家族の皆様、おめでとうございます。そして本当にお疲れ様でした。

私は今年、社員の先生の入院もあり秋から今福の中学3年生の理科を指導しました。彼らはとにかく素直で打てば響く生徒達でした。「頑張ろう」と激励すると、すぐに自習室や居残りで自習をし、先生を捕まえて質問をする。授業後の質問対応も、最終の22時20分を超えてしまうのが常でした。入試直前も、苦手単元をダイジェストで教えてくださいと誰かが言うと、他の生徒達も学校や男女を超えて「私も聞こう」と自然に集まってグループで指導する場面が多くありました。このように、補習一つをとっても、生徒達が主体的に動いてくれたので、効率的にできとても助かりました。

入試直前の3月9日には、最後の9時間自習を行い、自習の終わりに生徒達を集めて各先生からエールを送りましたが、どの先生も話しているうちに感極まって言葉に詰まってしまいました。特に、教室長の岸田先生は「今日で最後・・・」という言葉を発表すると同時に泣いてしまい、それを優しく見つめている生徒達が印象的でした。

先生達の話を知っていると、カイチのどの教室においても、このような生徒達の姿があったのだと思います。今どきの子は冷めていて、無気力とよく言われますが、昔も今も子供達の本質は変わっていないと思います。

生徒達は本当にこの1年間良く頑張りました。定期テスト2週間前から毎日自習に来て、直前は9時間自習。夏はクラブをしながら、学校の宿題と山のような塾の宿題。そして小テスト。秋からの文理学科講座や受験対策講座では鬼のような先生達の圧力に耐え、私立終了後には息つく間もなく、毎週の予想模試と結果の張り出して最後の最後まで追い込まれました。

本当にみんな最後まで自分に負けずにやり抜きました。



高木 秀章 (塾長)

それでも、残念ながら全員合格、全員が第一志望合格とはなりませんでしたが中には「あんなに頑張ったのに・・・」と考えている人もいられるかもしれません。でも、たとえ結果は出なくても皆さんの努力は絶対に無駄ではありません。

肩を落とし、努力は無駄だったと思う人がいるかもしれませんが、自分にはやはり能力がないのではと、自分で自分を疑う人もいられるかもしれません。それでも、努力と工夫を諦めないでください。

高校入試で思う結果が出せなくても、大学入試がある。大学入試でダメでも、そこで身に付けた「努力と工夫を続ける姿勢」は必ずみなさんの人生を支える大きな力になります。

人生を決めるのは受験の可否ではなく、受験を通して培った「努力と工夫を続ける姿勢」を持ち続けられるかどうかにかかっていると私は考えています。

そのような意味では、先生達もまだ努力と工夫の道の途中です。皆さんは、卒業してもずっとカイチ生です。いつでも遊びに来てください。皆さんのこれからの活躍と成長を心よりお祈りしています。

<ご家族の皆様へ>

ご家族の皆様、1年間お疲れ様でした。親は受験を通して自立に向かう我が子を、ただ見守ることしかできません。しかし、ご家族のその温かな見守りが、子供達にどれだけの勇気と励まし、そして安心を与えたか。彼らはその思いを胸にこれからも逞しく歩んでくれることと思います。最後に、未熟で至らぬ私達に大切なお子様を預けてくださり、そして最後まで通塾させていただき誠にありがとうございました。これからも、地域密着の塾として、少しでも子供達、保護者の方に寄り添っていけるよう精進努力を重ねてまいります。



▲公立入試翌日の採点会の様子。みんなドキドキでした。



▲採点会後は教室毎に茶話会。お疲れさまの乾杯!



▲最後は全教室でビンゴをして盛り上がりました!

Focus



CLASSROOM REPORT 教室レポート

万緑会 「自分で考える力」を育成中

伊藤 喜章 (万緑会)

万緑会は年少～年長までの生徒が通う小学受験クラスと年中～小3対象の能力開発クラスの2クラスがあります。両クラスでは只今春期講習の最中で、日々幼児の能力、特に「自分で考える力」を育成中です。

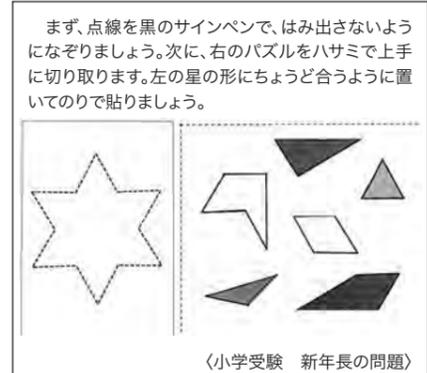


▲小学受験でも大切にしているのは、自分で考え行動する力

小学受験クラスでは、昨年の私立小学受験において、洛南高等学校附属小学校、また人気校の城星学園小学校や追手門学院小学校にも連続で合格者ができました。本当に素晴らしい結果となりました。更に今年の国立小入試では神戸大学附属小学校や大阪教育大付属野野小学校を中心に合格させることができ、毎年コンスタントに国立小学校への合格を出せるようになっていきます。

小学校受験の試験はペーパーと呼ばれる数や文字、常識などの問題や、幼稚園やご家庭の様子を聞く面接、試験官の指示に対して的確なかつ、協調性のある行動がとれるかを見る行動観察があります。

今年の万緑会では、授業内で新年長さんに以下の問題を出題しました。



〈小学受験 新年長の問題〉

まず、点線を黒のサインペンではみ出さないようになぞりましょうとあります。鉛筆で書いてしまうとアウトです。きちんと問題の指示が守れないと小学受験では減点対象となります。対象は小学校就学前の子供達ですが、きちんと指示の意味を理解し、落ち着いて考えて行動できるかを問われています。

また、簡単になぞれると思うこの形ですが、斜めの線をフリーハンドで書くのは幼児にとって大変難しいことです。また、図形を丁寧にハサミで切り取り、きちんとのりで貼るには指先の器用さや段取りを考える力も必要です。

今年の子供達は、例年みんなが苦勞する上記の問題を、ほぼ全員が解けていました。私立入試まで半年弱、更に彼らの力を伸ばしたいと山内先生と徳永先生はおっしゃっていました。

私の担当する能力開発クラスの春期講習では、本を1冊まるまる読んで感想文を書いてもらいます。今期のテーマは「春」です。



▲受験以上に子供達の人生を豊かにするものとして、読書習慣をつけていきたいと思います。

今年の大河ドラマ「光る君へ」は平安時代の宮中に仕える、『源氏物語』を書いた紫式部が主人公です。彼女とライバル関係の清少納言は「枕草子」の冒頭で「春はあけぼの、やうやう白くなりゆく山ぎは、すこしあかりて、紫だちたる雲のほそくたなびきたる。」で始まる有名な句をよんでいます。そこから今年のテーマを取りました。春の季節の高揚感やワクワク感を物語を通じて感じてもらえればと思います。

本を選ぶ基準は学年によりますが、なるべく絵や漫画の少ないものを選んでいきます。当然、絵がふんだんに入り、漫画で描かれている本の方が生徒達は喜びますし、見ていて面白いと思います。しかし万緑会としては、作者の育てきた環境や当時の雰囲気/人間関係、そこから受

けた影響などをできる限り頭で想像して欲しいと考えています。

読解力の育成は、いかに作者や主人公の立場に立ち、様々な出来事に対する感情を汲み取れるかが大きなポイントとなります。万緑会の算数と同様、イメージする力の育成はしっかり行いたいと考えています。

今年、能力開発クラスを卒業する子が大手中学受験塾で次のような問題を出されたと話していました。

1+2+3+4+5+6+7+8+9+10=?

当然、答えは55ですが、多くの子供達が最初から順番に足して考えたそうです。ただ、その子は1と10が11でそれが5つあるから55と答え、先生を驚かせたそうです。

普段から、数をタイルやブロックで手で触れる量として、また時に図として頭の中で操作し思考する万緑会生らしい考え方です。やはり、最終的に伸びる子は、公式やテクニックを数多く覚えていた子ではなく、それらを自分で導き出せる、またそのようなことを嬉々として考えられる子です。

「自分で考える力」の育成

言うは易し行は難しですが、変化の激しいこれからの時代を生きる子供達にとって必要不可欠な力であると考えています。

まだまだ、至らない所だらけですが、少しでも、子供達の将来に繋がる指導を行っていきたいと考えておりますので何卒宜しくお願いいたします。



▲万緑会のスタッフ。みんなで頑張ってます！(左から徳永先生、山内先生、私伊藤です)

Education



KAICHI'S ACTIVITY カイチの教育

2024年度入試を振り返って

坪田 陽一 (教務長)

さる3月11日、公立高校一般入学者選抜の学力検査が実施されました。

全日制の全体の平均倍率は1.05倍。昨年度1.13倍から大きくダウンしました。人気の高い文理学科10校においても、昨年度1.41倍に対して今年度1.35倍と0.6ポイントのダウン。また、一般選抜においては、なんと半数近くの61校が定員割れとなりました。これは先月号の川西先生の記事にあったように、私立高校の授業料完全無償化のニュースの影響により、私立専願率が3割を超えた結果、公立の志願者が激減したためです。

一方で、高津1.56倍、春日丘1.44倍、東高校1.38倍等、人気校は依然高倍率です。「私立の人気校に併願で合格したから、公立は下げずに目標の高校にチャレンジしたい」とこんな風を考える生徒や保護者が増えた結果、公立高校の人気2極化が進んでいます。大阪府教育委員会は2026年度からの公立入試日程変更を検討しているようですが、魅力のない公立高校は今後もどんどん淘汰されていくことになると思います。

合格発表が翌週3月19日でしたが、生徒の皆さんの頑張りに、開智総合学院全教室で文理学科33名(史上最多)、公立高校合格者122名(特別選抜合格者含)を出すことになりました。正直なところ、事前のデータからはもっと厳しい結果を予想しておりましたが、上記の全体的な倍率のダウンに助けられたと思っています。反面、高津や東などの高倍率の学校で、複数名の不合格者も出ています。チャレンジ受験の子もいましたが、結局は合格できるだけの力をつけてあげられなかった私達講師の力不足です。これらの手痛い教訓をもとにカイチの教務力を底上げし、今年の中学3年生をまた志望校合格まで導けるよう、研鑽していきたいと思っています。

それでは今回の公立高校入試問題について、教科毎に分析していきたいと思っています。なお英国については、多くの受験生が解くことになるB問題(標準)とC問題(発展)についてのみ触れます。

国語

B問題は年々難易度が上がっており、昨年と同様和歌と絡めた問題文が出題されていました。もう一つの長文も俳句に絡めた問題文でしたので、これらの表現技法など、基本的な知識はきちんと学習しておいて損はないと思います。55~70字の長めの記述問題が出題されているのも昨年と同様ですが、問題文のどこをヒントに解答を作るかが分かればそこまで難しい問題ではなかったでしょう。作文は「合意の形成に向けての話し合いを行う際に、あなたが心がけたいと考えること」という、昨今の情勢を踏まえたテーマ。普段から様々なニュースなどに関心を持ち、自分なりに考え、自分とは異なる意見を持つ人についても「なぜそう考えるのか」想像する。そうすることで作文についても「引き出し」が増えてきます。

C問題は昨年よりやや難化したかと思いますが。漢字の読みでは「殊に」「彫塑」の正答率が低そうです。読解問題では、大問1が『万葉集』と『古今和歌集』を対比した文章、大問4は歴史の見方についての、相変わらず抽象的でつかみづらい文章でした。それぞれ長めの記述問題もあり、完璧な答案を作るのは難しかったかもしれません。作文はここ数年、グラフから傾向を読み取って答える問題

が続いていましたが、今年度は、2つの資料が提示され、その内容を把握、吟味して書く形式に戻りました。テーマは「読書」という比較的取り組みやすいものだったので、時間配分をきちんと考え、落ち着いて書けばある程度点数はとれたかと思われま

が、数学が得意な子は、最後の問題以外は得点に結びつきたいところです。大問3の空間図形の問題は、過去問によく登場する形が出題されていて、特に前半は難なく解ける問題でした。全体的に、過去問をしっかりとやり込んだ人にとっては、似ている問題が複数出題されているのさほど難しくなかったのではないのでしょうか。

数学

B問題は昨年よりやや易化しました。例年と同様で大問1が計算問題、大問2が小問集合、大問3が一次関数の利用(規則性の問題)、大問4が平面図形・空間図形です。難問は数題で、標準的な問題ばかりでしたので、過去問を中心にきちんと学習しておけば、数学が得意な子なら相当な高得点がとれたでしょう。逆に言えば、一つのケアレスミスが勝敗を分けたとも言えるかと思

C問題については、昨年並みの難易度ではないかと思えます。形式は大問3題で例年通り。大問1の求め方を書かせる高配点のグラフの問題は比較的解きやすいものでしたが、ミスを誘う問題もあり、焦らず落ち着いて解けたかがカギでした。大問2は、大阪の入試問題では頻出の円が出題されました。数学が得意な子は、最後の問題以外は得点に結びつきたいところです。大問3の空間図形の問題は、過去問によく登場する形が出題されていて、特に前半は難なく解ける問題でした。全体的に、過去問をしっかりとやり込んだ人にとっては、似ている問題が複数出題されているのさほど難しくなかったのではないのでしょうか。

英語

B問題、C問題ともに難化。リスニング問題の読むスピードが速くなり、また、出題される単元も、仮定法や、原形不定詞、間接疑問文、後置修飾など、難度の高い問題が多くみられました。

B問題では、問題構成に変更はありませんでしたが、上記の単元が多く出題されたので、苦戦する要因になったのではないかと思います。C問題では、正誤問題で2単元複合の問題が出題されたり、2つの品詞をもつ単語(helpは名助け・動助ける。※使い方が変わります)が出題されたり、出題範囲内ではあるが、あまり使用しない単語が問題に出題されたりしたので、難しかったように思えます。長文問題でも難化したものがあり、点数を落とす大きな原因になりました。英作文では、目標を達成するために重要なことに対して、自分の意見と経験したことをあげ、具体例をもって説明する内容でした。問題文の中に書く項目のヒントが読み取れるものになっていたため、書きやすかったのではないかと思います。ここ数年英語の難易度は大きく変化しており、昨年、一昨年の易化傾向から一変し難化したので、今回英検2級のアドバンテージは大きかったのではないかと思います。

理科

昨年よりも易化。生物、地学、物理、化学のそれぞれで大問1つずつ、という構成は例年通りで、小問の数も昨年とほぼ同じです。問題文の量は、過去と比べると少なめですが、40分で全て解ききり、見直しまで行うには「設問を先に読み、問題文中から必要な情報を探す」ことに慣れておく必要があります。傾向としては、中学理科で習った基礎知識から未知の内容を考える、思考型の問題の出題が

が続いていますが、今年度は、2つの資料が提示され、その内容を把握、吟味して書く形式に戻りました。テーマは「読書」という比較的取り組みやすいものだったので、時間配分をきちんと考え、落ち着いて書けばある程度点数はとれたかと思われま

ています。近年は「記述形式での出題」がやや増加しており、必要な情報を端的にまとめ、記述する能力も求められる傾向があります。今年度は、カボチャの実の色は、受粉により生じる遺伝子の組み合わせと関係がないことから思考する問題が出題されました。また、前回の教科書改訂から新たに学習内容に加わった、ダニエル電池に関する問題が初めて出題されました。これは過去問のみの学習では対応できないので、きちんと学校や塾のテキストで復習しておく必要があります。ちなみに塾では最後の予想模試で出題されています。

普段の学習においては、①語句の意味を正確に把握する、②公式を、意味がわかってつかえる状態にする、③典型的な記述問題は暗記、また端的に答えられるようにする、④計算問題では「最終的に求めたいもの」を把握し、逆算する練習をする、⑤未知の問題に対し「教科書に載っている知識に引き込んで考える」という点に注意して取り組んでいきましょう。

社会

難易度は昨年並み。大問1~3の地歴公民各分野の問題はほぼ基本問題です。資料の読み取りも焦らずじっくり読めば確実に正答できたとはいえます。塾で使用しているテキストで十分対応可能なレベルでした。大問4の総合問題はやや難しかったのではという印象です。直接請求権の署名数や都道府県知事の被選挙権、歴史では福徳山古墳と江田船山古墳が出題されるなど、教科書を隅々まで読んでおかなければ解けない問題が見られました。

総合的に昨年より易しくなったように思いますが、文章のどこどこに読み間違いを誘発するような箇所があったり、漢字指定の問題が例年より多かったりと、ケアレスミスで思うように点数を伸ばせなかった生徒もいたのではないのでしょうか。

今の新中3がやるべきは、学校や塾の教材の課題を消化し、重要項目は復習ノートに正確にまとめること。これで十分です。進捗チェック表等を使って計画的に進めていきましょう。

総評

こうしてみると、全体的な問題の難易度は、例年通りかやや難化したという印象ですが、最初に述べた全体的な倍率ダウンにより、(例外はありますが)さほど高得点をとらずとも合格ラインに到達できたのではと推測されます。一方、依然として問題文の量や記述問題は増加傾向です。「グラフ、図表から必要な情報を素早く正確に読み取る力=読解力」を問う問題は年々増えています。大学入試がそういっ方向にシフトしている現状から考えれば当然の流れです。

ただし、いかに読解力や思考力が大事といっても、その土台になるのは「単語・漢字や重要用語の暗記」「公式や法則の暗記、理解」です。新中3年生の皆さんは、もう「受験生」です。入試説明会でも触れたとおり、受験勉強ができる時間は限られています。1年後の入試を見据え、今できることに積極的に取り組みましょう!

合格発表の3月19日、私も諸口にて電話を受けました。ある子からの「不合格でした」という電話。そのまま無言。受話器の向こうで、泣くのを必死でこらえているのが伝わってきて、もらい泣きしそうになります。特に直前に自分を追い込んで頑張っていた生徒には、なかなかかける言葉が見つかりません。

でも、本気でぶつかり、涙を流す。そんな経験ができていくことは幸せだとも思います。今は気休めにしか聞こえないかもしれないけど、その悔しさを正面から受け止め、新しい一歩を踏み出した時点で、貴方は一回りも二回りも大きく成長できているんだ、と。

また新たな1年がスタートします。私達も、不合格者を出した悔しさを正面から受け止め、新しい一歩を踏み出します。新中3の生徒の皆さん、共に頑張ってください。



C問題国語の作文、資料A、Bともに名言ですが、どのように自分の考えと結びつけるか、です。